

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 仲町 小学校)

学校番号 0 1 2

【様式】

目 指 す 学 校 像	子どもたちの自信をはぐみ、保護者・地域の信頼に応える学校 ～笑顔が輝き、あいさつが響き合う仲町小～
重 点 目 標	1 ICT 環境の下、個別最適な学びと協働的な学びを実現するカリキュラム・マネジメントを推進する 2 安全・安心で健康な学校に向けて、教育環境の整備や生徒指導・教育相談・食育活動を推進する 3 コミュニティ・スクールを通し、学校、家庭、地域の三者が「教育の当事者」として連携・協働を進める 4 教職員一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地よい（Well-Being）な教師・教師集団を構成する

達	A	ほぼ達成（8割以上）
成	B	概ね達成（6割以上）
度	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日 令和7年2月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【学力向上に関する取組】 〈現状〉 ○前年度の6年生の全国学力・学習状況調査において、国語・算数・理科は全国や市の平均に比べ良好である。また、前年度の3～6年生の市学習状況調査において、国語・算数・理科・社会は市の平均に比べて良好である。 ○学校評価の授業に関する評価において、保護者・児童ともに肯定的な回答が95%に達している。 〈課題〉 ○市学習状況調査では、各学年・各教科ともに上位層が多いが下位層もいて、個人差がある。 ○新しい学びを積極的に取り入れ、変化が激しい時代を生き抜くための力を育成することが必要である。	・学びの自律化の推進 ・個別最適な学びの実現	1 教科担任制を5・6年生で通年実施し、多面的な児童理解を体制化 2 全国学力学習状況調査の振り返りと、学力向上カウンセリングの実施と授業改善の実施 3 指導訪問等を踏まえた授業改善や管理職による定期的な巡回指導 4 休み時間を確保する日課表の設定	1 全国学力・学習状況調査において、国語、算数が、前年度の市平均以上を維持することができたか 2 学校自己評価の児童の授業評価において、肯定的評価を維持できたか 3 学調の振り返り、カウンセリング研修を実施したか	・全国学力学習状況調査では、国語、算数共に市の平均を大きく上回ることができた。 ・教科担任制を行うことにより、日々の授業が充実し、児童の授業評価において高い児童授業評価（低92%高95%）であった。 ・全国学力学習状況調査の結果の考察や共通理解を行うことで、教員一人ひとりが日々の授業に生かすようにした。	A	・引き続き、教科担任制の継続と指導の充実に努める。 ・全国学力学習状況調査やさいたま市学習状況調査などを踏まえ、児童の実態や社会の要請を踏まえた指導の充実に努める。	・保護者からの満足度も高く、児童たちは落ち着いた環境で授業を受けている様子が伺える。 ・全体としては学力状況調査の結果は良好を維持していところだが、取り残される児童がないよう、寄り添ってほしい。 ・児童数が増加傾向にあり、教室の増設やコンピューターの故障対応等が大変だと思う。必要に応じて市教委へ協力を求めるなど、弾力的に対応してほしい。	
			1 令和6年度小学校金融経済教育の実践モデル校としての取組を充実 2 学年会、教科等部会の充実による組織的な児童支援を推進 3 エバンジェリストを核として、教職員のICTスキルを高めるとともにスタディサプリやドリルパーク等を活用	1 学校自己評価の保護者の授業評価において、肯定的評価を維持できたか 2 系統性を持った校内研修を計画し、各教科の研究授業を実施できたか 3 タブレット活用研修を実施したか 4 市学力状況調査において、児童に肯定的な変容が見られたか	・保護者の授業評価は、93%と高い評価を維持している。 ・計画的な校内研修を行い一人一授業の研究授業実践を行った。 ・タブレット活用研修を実施し、一人一台端末の効果的な活用に努めた。	A	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させることにより、自分の考えをもち、共に学び合う子どもの育成を図る。 ・ICT 機器とクラウドを活用した授業を積極的に行い、校内研修においても授業力向上を目指して取り組んでいく。		
2	【安心・安全に関する取組】 〈現状〉 ○いじめは毎年起きていて、担任や組織で対応しているが、見守りを継続している事案もある。 ○長期欠席者が数名いて、関係機関と連携したり担任や学年、学校全体で対応したりしている。 ○心と生活のアンケート等を実施し、子どもの悩みの把握に努めている。 ○学校評価での保護者の「あいさつ」についての否定的意見が15%あり、課題と捉えている。 ○いじめの認知を積極的にに行い、早期対応する。 ○施設等の不備を早期に発見、早期に対応する。	・家庭や地域、関係機関と連携した組織的な対応 ・安全で安心できる教育環境の整備	1 心と生活のアンケート等（毎学期）の結果を受けて、迅速な面談と記録の実施 2 日常の事件・事故の報告・連絡・相談・確認と、緊急時の組織的な対応 3 道徳の時間を中心とした考える道徳教育の実施と公開 4 SC、SSW、市教委、支援課、児相、相談室、警察等との連携	1 心と生活のアンケート設問3「生きていてもしかたがないと思う」に該当する児童に、即日面談を実施したか 2 学校自己評価の教員の「いじめ対応」についての評価で、肯定的評価を維持できたか 3 授業参観・学校公開等で年に1回以上、全学級が道徳を公開したか	・心と生活のアンケート設問3「生きていてもしかたがないと思う」に該当する児童については、即日面談するとともに保護者への連絡、経過観察を徹底した。 ・「いじめ対策」について教職員から肯定的評価96%という高い評価を得ることができたが、長欠児童については、課題がある。 ・授業参観・学校公開等で年1回以上、全学級が道徳を公開した。	B	・心と生活のアンケートやおはようメーターなどの情報を踏まえて、適切な生徒指導・教育相談を行う。 ・Solaを一むに教員の配置を行うことで児童が安心して学校に来られる環境整備を行い、長欠児童の減少を図る。	・あいさつの励行について、教職員が肯定的でない回答が3割を超えており、児童や保護者との肯定的な回答と差異が生じている。学校で分析を行い、教職員が率先してあいさつを行うなど、改善が必要だと思う。 ・登校時間を守ることや下校の見守り地域全体で周知・協力依頼をしていくことが大切だ。	
			1 交通事故や食物アレルギー事故の未然防止のため、日々の生活指導と計画的な安全教育の実施 2 事故発生時に適切な対応を行うための計画的な研修の実施 3 あいさつ運動の定期的な実施や育成会と連携した下校指導の実施	1 教職員・児童・保護者の学校安全の評価で、肯定的評価を維持できたか 2 安全に関わる研修や訓練を全て実施することができたか 3 あいさつ運動の定期的実施を通して、保護者の「あいさつ」に関する肯定的回答が向上したか	・教職員96%、児童98%、保護者98%と高い肯定的評価であったが、登校時間が守られていない課題がある。 ・あいさつに関わる研修や訓練を全て実施することができた。 ・保護者の「あいさつ」に関する肯定的回答を向上することができなかった。	B	・児童が安全に登下校をすることができるよう、引き続き日常の指導と教職員による登下校指導を行う。 ・あいさつの指導については、学校で引き続き指導を行うとともに家庭や地域での協力を呼び掛ける。		
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 〈現状〉 ○学校運営協議会とSSNが連携・協働し、地域とともにある学校づくりを推し進めている。 ○チャレンジスクールやPTA、育成会等との連携により、保護者や地域の教育力を生かした教育活動を展開している。 〈課題〉 ○学校教育の充実や地域との連携の強化のため、施設設備の有効活用を図る。 ○学校運営協議会とSSNとの連携により、児童の健全育成に関わる活動を検討、実施する。 ○地域の教育力を生かした教育活動を実施する。	・学校運営協議会とSSNとの連携・協働 ・地域や関係諸機関と連携した教育活動の実施	1 学校・家庭・地域が連携・協働する植栽活動等の実施 2 学校運営協議会委員による行事参観を通した「地域とともにある学校づくり」の推進 3 SSN団体や体育施設開放団体との連携による開かれた学校づくりの推進	1 学校自己評価の地域との連携についての評価で、保護者の肯定的評価が向上したか 2 学校・家庭・地域が連携した、植栽活動を実施できたか 3 地域主催行事に参加できたか	・保護者の肯定的評価は、93%（昨年度94%）でほぼ横ばいであった。 ・PTAや育成会と連携した植栽活動が実施できた。 ・学校運営協議会を年3回開催し、その日に合わせて授業参観や給食を子ども達と食べる機会を設けた。	A	・地域主催行事への出演や作品提供、参加等、積極的に奨励していく。 ・今年度同様、学校評価等の保護者等の意見を大切に取り扱っていく。 ・SSNの各団体との連携を引き続き図っていく。	・学校へ来ることへの楽しみや学力向上、学校安全への満足度は児童も保護者も高い。これは日頃の学校教育活動の成果だと思う。 ・一方で、地域行事への参加については特に高学年で低下しており、地域として課題と感じている。保護者や学校とも協力して、地域全体として対策を考えていきたい。	
			1 学校・家庭・地域の方々との給食会食の実施 2 地域のヒト、モノ、コトを活用した教育活動の実施 3 保・幼連携・小・中一貫を検討する機会の設置と協議を実施する。 4 迅速な情報発信のために、学校安心メールの活用と、配布文書の電子化	1 給食試食会を実施できたか 2 地域のヒト、モノ、コトを活用した教育活動の実施できたか 3 学校自己評価の「地域との連携」についての評価で、教員の肯定的評価が向上したか 4 配布文書を電子化し、適時適切にホームページで閲覧できるようにしたか	・給食試食会を実施することができた。 ・地元農家や高齢者施設、浦和レッズ等と児童が関わる活動を実施した。 ・「地域との連携」について教員の肯定的評価96%と高評価であった ・保護者への配布物を原則電子化することで積極的かつ効率的な情報開示を行った。	A	・学習に効果的な地域の人材や施設等は教育課程に位置付けていく。 ・保育園や幼稚園等の就学前施設との連携を引き続き図っていく。 ・PTAの仲フェスや自治会・育成会事業などに積極的に協力して子どもたちの健全育成を図る。		
4	【教職員の資質向上に関する取組】 〈現状〉 ○健全で持続可能な学校運営のために、業務に優先順位を付け、全校を挙げて働き方改革を推進する必要がある。 ○前年度はSA6名、大学生等のAT3名、日本語指導員2名等により、児童一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育活動を図っていた。 〈課題〉 ○研修内容や学校のきまり等を共有化・日常化し、指導の一貫性と指導力向上を図る。 ○初任者、臨任者等の経験が少ない教員の指導力を育成する。 ○やりがいを持った働き方推進のため、学校全体で業務改善と業務の平準化を進める。	・校内研修を核とした研修の実施 ・教職員のやりがいを高める働き方改革の推進	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る校内研究授業の実施 2 自己評価シートとキャリア振り返りシートを活用した当初面談における研修奨励の実施 3 管理職による毎日の教室巡回と、年1回以上の授業観察の実施	1 学校自己評価の教員の「授業評価」で、肯定的評価を維持できたか 2 管理職による毎日の教室巡回と、年1回以上の授業観察を実施したか 3 当初面談において、研修奨励を実施したか	・教員の授業評価では肯定的評価100%と高い評価を得ることができた。 ・管理職による毎日の教室巡回と校内研修での授業観察を実施した。 ・当初面談での研修奨励と達成状況面談での振り返りを行い、教職員が自らの研修の見直しを持たせることに努めた。	A	・学校教育目標の具現化を図るため、ICT機器を積極的に活用した学びの自律と個別最適化を図る。 ・キャリア指標を踏まえ、教職員が主体的に取り組めるような個人研修を管理職が共に考え、推奨していく。	・時間外在校時間が基準を超えている実態を踏まえ、保護者対応や行事開催の準備など、教職員の負担軽減を引き続き図っていく必要がある。 ・金融教育などの現代的課題に即した教育活動に対応するため、教職員の研修や研鑽も一層必要となってくる。その際、ICTはツールであることも念頭に授業を行ってほしい。	
			1 教育環境と教育活動の見直しと改善 2 教職員自身の出退勤時刻の把握と、管理職の指導助言の実施 3 学校組織全体での協力体制の下での計画的な年休取得と教職員の自己研鑽 4 各学年主任・副主任体制の実施	1 時間外在校等時間が月平均45時間以上の教職員が、1学期から2学期へ半数に減少したか 2 人事異動調書の職場環境についての否定的回答数を維持できたか 3 人事異動調書の満足度についての肯定的回答率が向上したか	・時間外在校時間平均45時間以上の教職員数を半減することはできなかった。（1学期8人→2学期7人） ・職場環境の否定的回答数は、ほぼ維持できた（3件→4件） ・満足度については、「やや不満」「不満」が一人もおらず、普通以上100%であった。	B	・学校行事、特に校外行事の精選と業務の負担軽減により、教職員が実感するような働き方改革を行う。 ・引き続き「計画年休」や「ノー残業デー」を推進するとともに一人の教員が仕事を抱え込まないように組織で対応する体制を継続する。		